資料１

四季防災館のリニューアルの検討について

令和６年５月２２日
富山県

目　次

1 四季防災館の概要
・施設概要、来館者の推移、現状と課題

2 令和５年度の類似施設の視察調査結果概要

3 前回検討会（運営委員会）の振り返り
・主な意見

4 令和６年能登半島地震　課題等

5 リニューアルの方向性、コンセプトの検討

6 今後の進め方、当面のスケジュール

1 四季防災館の概要

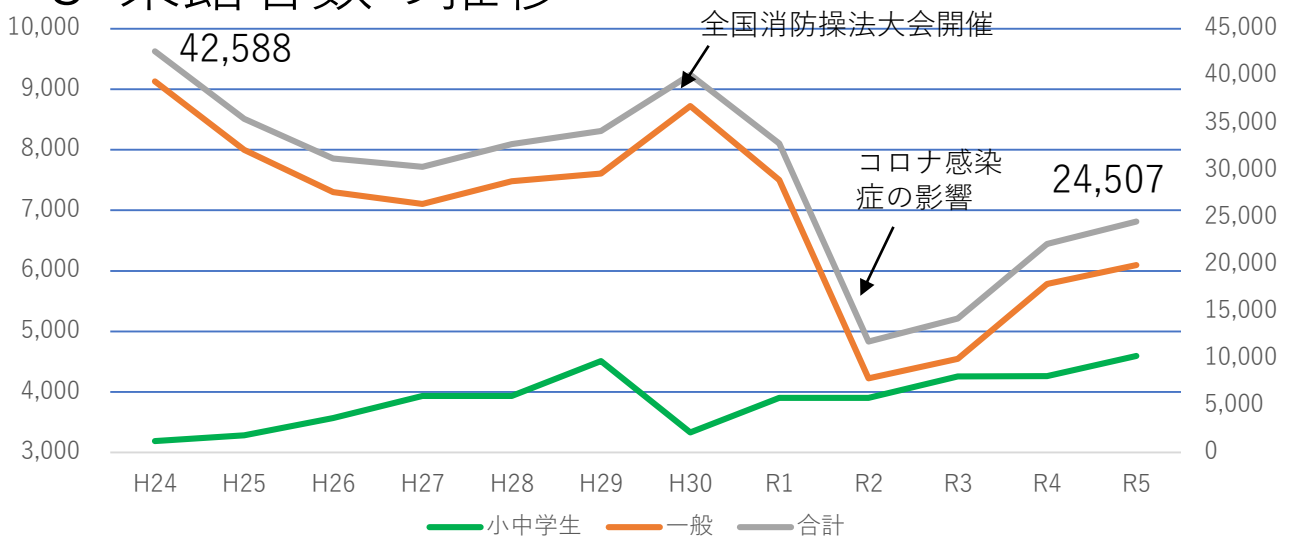
1 施設概要

・開館年度：H24（開館から12年経過）
・延床面積：1,001㎡（３階建て）
・指定管理者：富山県消防協会

2 展示の基本方針

(1) 災害を四季でとらえる
(2) 自助+共助を重視
(3) 富山の災害の歴史や自然を重視
(4) 本格的な体験学習が行える
(5) 運営負担の少ない施設とする

3 来館者数の推移



年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
小中学生	3,185	3,281	3,570	3,934	3,935	4,508	3,328	3,899	3,902	4,257	4,258	5,905
一般	39,403	32,148	27,655	26,405	28,796	29,632	36,787	28,924	7,861	9,951	17,882	10,758
合計	42,588	35,429	31,225	30,339	32,731	34,140	40,115	32,823	11,763	14,208	22,140	24,507

小中学生の来館者数は新型コロナ等の影響を受けていない。
それ以外の一般来館者数は影響を受け、開館以来減少傾向

【施設の現状と課題】

課題１　来館者数の減少　　H24：42,588人 ⇒ R5：24,507人（△18,081人　△42.5％）
課題２　施設設備の陳腐化　（来館者から展示内容が古いとのご指摘あり。）
課題３　災害等への対応　　（体験はあるが、災害への備えや避難行動につながるコーナーがない）

２令和５年度の類似施設の視察調査結果概要

１先進的な防災体験施設を視察

・そなエリア東京
・東京消防庁本所防災館
・静岡県地震防災センター
・減災館（名古屋大学研究施設）
・堺市総合防災センター
・人と防災未来センター（兵庫県）

２視察結果を踏まえ、四季防災館について課題を抽出

・ＶＲやＡＲなどの視覚的演出等の設備を有していない。
・地震体験や豪雨体験に映像が無く、臨場感に欠ける。
・避難行動につながるコーナーが必要。
・ハザード情報などリスクを知らせるツールの紹介コーナーが必要。
・被害軽減のために学習成果を家庭等に持ち帰るコーナーが必要。

3 前回検討会（運営委員会）の振り返り（R5.12.25）

<主なご意見①>

〇現地で見る災害の姿は毎回違う感じがするので、災害の新しい記憶を子供たちが見て、体験できるものをリニューアルに盛り込んでほしい。

〇富山ではこれまで比較的大きな災害が少なく、県民の危機意識が少し弱いかもしれない。災害事例の映像を見せることなどにより、注意喚起が必要。

〇地震体験コーナーで映像を流す企画は一番良い。子供たちに映像を見せることで、災害の怖さを知ってもらいたい。

〇個別の災害事象ごとの説明と、避難や生活支援など横の説明とを、うまくプログラムの中で解説できるような場面を作っておいたほうがよい。

〇四季防災館もバージョンアップしていかないと何回も来たいとはならない。災害の体験をもとに、どう備えるかまでつなげてほしい。

３ 前回検討会（運営委員会）の振り返り（R5.12.25）

<主なご意見②>

〇四季防災館が開館してから10年間の変化をしっかりリニューアルに反映させることが大切

〔開館から11年も経過して展示内容が一部陳腐化。新しい映像やＶＲの活用など、リニューアル案を全て実現してほしい。〕

〇ＶＲの防災体験が脚光を浴びており、東京消防庁でも４年前に導入。消防以外の分野でもＶＲが増えてきたので、導入費用は以前よりも安くなっている。

〇「動く四季防災館」として、ＶＲ機器やシアターのコンテンツなどを持ち出して利用できる仕様のものなど検討できないか。

〇ハザードマップだけでなく、井波風など地域特有の災害に即した資料も持ち帰れるようにしてほしい。リニューアル計画期間をできるだけ短縮してほしい

4 令和６年能登半島地震　課題等

【現状等】

1 県内で初めての震度５強の地震でとまどったとの声が聞かれた
（身近な能登地方で震度７を観測。本県でも大地震への備えが必要との意識が広がった）

2 多くの住民が車で避難したり、津波被害が想定されていない地域の住民が一斉に避難したりしたため道路渋滞が発生した。（ワンチーム会議）

3 震源から遠く離れた地域でも、液状化等の被害が起きた。

【課題】

・避難行動やハザードマップ等の地域のリスクの住民への十分な周知
・日頃からの備えについて普及啓発

➡ 本県の体験型学習施設として、今回の地震の教訓や記録を活かしたリニューアルとすべき

5 リニューアルのコンセプトの検討　①方向性

ありたい姿・
実現したい未来

県民が災害を知り、正しく恐れることで、災害への備えができ、
安全・安心実感が充実している

県民のウェルビーイングの向上へ ⇒ 安心・心の余裕 実感、思いやり実感、つながり実感

リニューアル
の方向性

基本方針を活かしつつ、より正しく災害を理解し、災害への備えができるよう、リニューアルを行う。

<基本方針>
(1) 災害を四季でとらえる
(2) 自助+共助を重視
(3) 富山の災害の歴史や自然を重視
(4) 本格的な体験学習が行える　⇦　ニーズに合わせ、体験、学習を充実
(5) 運営負担の少ない施設とする

＋

県民ニーズ（アンケート）、有識者意見を聴取　（災害への備えなど）

5 リニューアルのコンセプトの検討　②検討のたたき台（機能の分類例ほか）

機　能 （分類例）	現　　況	リニューアルにあたり考えられるもの（例）
体験する	地震体験（揺れと波形のみ）（１Ｆ） 119番通報体験（１Ｆ） 高齢者助け合い体験（２Ｆ） 初期消火体験（２Ｆ） 煙体験（２Ｆ） 風水害体験（２Ｆ） 流水体験（２Ｆ） 寄り回り波（１、２Ｆ） 雪崩体験（２Ｆ）	・より実際に近い、地震、津波、水害等の体験 〔臨場感のある地震体験（映像・音声） 没入体験できるＶＲでの防災体験ほか〕
備　え　る	防災グッズ等の展示（１Ｆ）	・日頃の備え ・学んだ知識の家庭や地域への持ち帰り
学　　ぶ	富山の四季と地形（１Ｆ） 防災シアター（１Ｆ） 水害と治水の歴史（１、２Ｆ） 富山と雪（２Ｆ） 強風災害（２Ｆ） 山地災害と山岳救助（３Ｆ） 津波想定図（３Ｆ）	・住んでいる地域のリスクの把握 ・正しい避難行動（楽しく学べるもの） ・災害の記憶を忘れない展示（能登半島地震） ・災害のしくみを学ぶ （子供が楽しんで学べる災害の仕組み模型等） ・防災体験、学習機能の地域への発信

6 今後の進め方、当面のスケジュール

前回（R5.12.25） 第10回運営委員会（リニューアルの検討）

<能登半島地震>

R６第１回（R6.5.22） 第11回運営委員会（リニューアル方向性 意見交換）

・課題の整理、リニューアル方向性、進め方

＜県民アンケート（5月下～6月）、来館者アンケートの実施（5/1～6月）＞

〃 第２回（7月下～8月） 第12回運営委員会（アンケート結果等踏まえ、検討）

・県民アンケート、来館者アンケート結果報告

・有識者からの意見聴取（関西大学社会安全学部 城下英行 准教授）
専門分野：防災教育、自然災害科学

〃 第３回（9月下～10月） 第13回運営委員会（リニューアル計画（素案））

〃 第４回（11月下～１月） 第14回運営委員会（リニューアル計画（案））